

# エリンギョイ 園芸

野菜

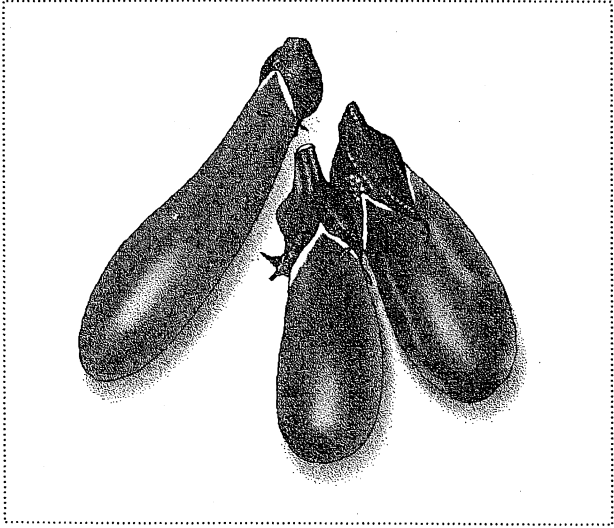
—— 鮫島 國親

古くから日本人に人気の高い野菜で、一般に流通している品種とは別に、在来品種が多く、地方で栽培され、食文化を支えています。みそとの相性が良く、調味料や油がしみ込みやすいことから、煮物、揚げ物、漬物などに幅広く利用されています。本葉八枚で一番果が着生し、以降二枚おきに次の花が着生します。花は下を向いて咲くので、雌しべが短い（短花柱花）と花粉が着きにくく、着果不良になりやすいです。雌しべの長い花が着くよう草勢維持に努めましょう。今回は家庭菜園で手軽に作れる露地栽培を紹介します。

## ナス

生育適温は二二―三〇度、発芽適温は二五―三五度です。肥沃な土壌を好み、水分を多く必要とすることから、水かけの便利な場所が適します。連作すると土壌病害が発生しやすくなるので輪作（畑五年）が望ましいです。連作をする施設栽培等では土壌消毒や接ぎ木栽培を行います。苗は購入する場合がありますが、好みの品種を種で購入して育苗から始めるのも楽しいです。育苗期間は五十日くらいです。定植期は四月―五月上旬ごろで、最初の花が咲くころが適期です。本ぼにはあらかじめ一平方メートルあたり苦土石灰一五

## 古い葉はこまめに除去



〇タ、堆肥、三キ、化学肥料  
百タ（三要素一五割の場合）を目安として施します。栽植密度はうね幅二タ、株間五十五―七十タとします。定植後は仮支柱を立て、苗を固定します。株が伸びてきたら、一株三―四本の主枝を選び支柱に誘引します。主枝から発生する側枝は第一花の上一枚を残して摘心し、一番下の脇芽を一

つ残して他は除去します。果実を収穫したら、この側枝は一芽残してハサミで切り落とします。また、こまめに古い葉を除去しましょう。追肥は二番果の収穫が始まる時期から二週間に一回施します（化学肥料一平方メートルあたり二十タ/回）開花から収穫までの日数は二―二十五日です。生育が進み繁茂してきたら、地面からの高さの半分くらいで枝を切る更新剪定を行うと一カ月後に再び秋ナスが収穫できます。



（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

# くらし 悠遊優